

伊達松風

題字 松浦常雄

第 75 号

令和7年9月6日

発行者

福島県公立学校
退職校長会伊達支部会長
蓬 田 吉 穂

歓迎の言葉



伊達支部会長
蓬田 吉穂

四月の総会において、伊達支部会長を仰せつかりました蓬田吉穂です。浅学非才の身でございますが、会員の皆様方のお役に立てるよう精一杯努めて参りたいと思います。

今年度、石幡良子氏が新しい仲間として加わりました。支部はもとより県全体でも学校減や定年延長・役職定年制などの影響で、年々新入会員が減少している中での貴重な加入です。本会に新しい風を吹き込み、会の進展のために寄与されることを期待しています。

本会の主な活動は、各方部ごとの懇親会の開催、俳句・囲碁・ゴルフのクラブ活動、本年度から年一回の広報誌「伊達の松風」の発行、各教育委員会への要望活動等

です。本会活動の活性化・継続化を図りながら、会員のニーズに沿った新たな活動や取り組みを創造していくことが長期的な課題と受け止めております。短期的には、会員数減・予算縮小に伴う経費削減、新会員加入への働きかけ令和十年の本支部開催予定の県大会に向けての準備等です。

なお、県大会の開催については、十一月の県支部長会の折りに隔年開催や持ち方等を検討しますので、ご意見をお持ちの方は事務局または各方部長までお寄せください。

六月の会津大会で、本支部を代表して矢館実也先生から素晴らしい写真の紹介とともに、カメラ人生「かきくけこ」を発表していただきました。本会でも「か」感謝の心で、「き」協力し合い、「く」苦楽を共にし、「け」健康を保って、「こ」交流していきましょう。本会に対して引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

四月より国見町教育委員会の一員として、国見町の教育に携わらせていただいております。この間、この地域が持つ「子どもの成長を全力で支える」という温かい力に感動し、感謝しております。

国見町の教育を支える大きな柱の一つに、地域学校協働活動の充実が挙げられます。

子どもたちの田植え体験や郷土料理の伝承活動、さらにはプール監視といった多岐にわたる活動が展開されており、これらは「統括コーディネーター」と「学校支援コーディネーター」を中心、多くの保護者や地域の方々のご尽力によって成り立っています。地域の方々が教員と子どもたちを献身的にサポートしてくださるおかげで、教員は一人一人の子どもたちとじっくり向き合う時間を確保できております。

また、平成二十六年十二月からは、「コミュニティ・スクール委員会」が設置され、学校、家庭、地域が一体となって子どもを育むための体制が整えられました。保育

我が町「国見の教育」 ～地域と共にある学校～



国見町教育委員会教育長 石幡 良子

所・幼稚園・小学校・中学校が密接に連携し、「中学校卒業までに目指す子どもの姿」を明確に共有すること、それぞれの施設・学校が具体的な目標と実践事項を掲げ、切れ目のない一貫教育に取り組んでいます。この緊密な連携こそが、国見町が誇る教育の強みであり、子どもたちの確かな成長を支える基盤となっております。

さらに、令和六年四月には、部活動の新たな受け皿となる「国見町コミュニティクラブ」が発足いたしました。現在は、卓球部男女とソフトテニス部男女が休日の部活動をコミュニティクラブの活動として実施しています。休日の指導者不足という課題はございますが、今年度末には休日のすべての運動部活動の地域移行を目指し、歩を進めております。

これからも、持続可能な学校を目指し、学校、家庭、地域が一体となった教育を推進してまいります。



十年目の近況



今日は○○、
明日は○○。

【桑折方部】亀岡 和美

普段は、週1か2の非常勤の仕事。地域の各種団体の役員。それに関わる充て職。幼稚園や小学校から依頼されたボランティア活動等々。今日は○○、明日は○○と、カレンダーに書いたスケジュールを確認しています。この十年の間で、今が一番忙しいかもしれません。元気に過ごせることを感謝しつつ、自分が役に立つ事があればと思い活動している日々です。

これから暑い日が続きます。猛暑日のことも多く、少し憂鬱です。我が家は桃農家（趣味の延長ではあるもの）ですので、この時期には全部の仕事・活動を断って収穫作業をする事になります。実は、これが一番・・・大変です。



スケジュール手帳
が必須

【梁川方部】穴戸 弘治

現在、私は定職はなく、基本的

に年金暮らしですが、三年前に伊達市教育委員会委員となり、幼小中の学校訪問などをしております。また、二つのNPOに入っており、特に民俗芸能の継承に努めるNPOは県内全域を対象としており、真冬の南会津に行くこともあります。退職校長会についても、公立学校退職校長会以外に、県北地区と会津地区の県立学校退職校長会の役員もしております。さらには、お寺と町内会の役員もしており、行事が重なることもあります。そのため、スマホでスケジュール管理ができない私は、毎朝手帳を確認しては、予定を忘れていないか、間違っていないか、ダブルブッキングはしていないかなどと不安に駆られております。



自転車旅を
楽しみに

【梁川方部】福原 太一郎

十年があつという間でした。また、いろいろなことがあつた密度の濃い十年でもありました。

退職とともに伊達市教育委員会に勤務した私でしたが、一時よくなっていた病気が悪化し、二年でその職も辞しました。難病に指定される私の病気は、なかなか手強

い相手です。一生付き合う病と覚悟し、注意して生活しています。三年前の冬、三度目の手術を受けました。小腸を五〇センチ程切り取りました。その後の経過はよく、体調が戻り、退職と同時に再開した自転車旅やロードバイク乗りを楽しめるまでになりました。来年春には九州一周を計画しています。楽しみです。

今後とも元気に頑張ります。



これが私の
生きる道

【伊達方部】穴戸 正幸

晴耕雨読が退職後の理想の生活であつた。しかし、十年目も日々が慌ただしく過ぎていく。

退職後、国見町教育委員会学校教育課、梁川の社会福祉法人嘉啓会こども園準備室、就労継続支援B型事業所、そして今は伊達市立図書館に勤務、想定外の母の介護、そして趣味のオカリナ。

退職後の仕事は現職中とは違つた多くの方々との出会いをいただき、そしてやりがいのある仕事であつた。また、オカリナの演奏はとても奥が深く、家庭と職場以外の居場所を提供してくれている。

今年四月から、町内会の会計の

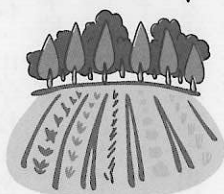
仕事を引き受けざるを得なくなつた。今まで地域にほとんど貢献してこなかったもので、これからは恩返しができるかと思っている。



「開墾」からの
スタート

【保原方部】菅野 善昌

昨年の四月からは、新たに土地を借りてこれまでの倍の面積で家庭菜園を楽しんでいます。ただ、新たに借りた土地は、山間で東北中央道の建設に伴って広げた一般道路を、工事の終了とともに元の状態に埋め戻したところ。畑にするためには全くの開墾からのスタート、これも大きな楽しみでした。スコップを手に入れた土を掘り起こし、ゴロゴロと出てくる大人の頭大の石や粘土質の土に紛れる小石に苦戦しながら、約二ヶ月かけて約六十坪の畑ができました。土質の改善をはじめ様々な課題はありましたが、最大の課題は、冬場は山の陰で全く陽が当たらないことでした。今年はこの環境を踏まえ、美味しい野菜づくりを目指してせっせと畑に通う毎日です。



県大会報告



支部副会長 高橋 孝

第五十九回福島県公立学校退職校長会津大会が、令和七年六月十日（火）南会津町の御蔵入交流館を会場に約百八十名の参加者により開催されました。伊達支部からは蓬田支部会長（県副会長）始め四名が参加しました。

開会式後、奥会津ねっか株式会社代表の脇坂斉弘氏による、演題「米焼酎ねっか 只見で生き抜く」の講演がありました。脇坂氏は郡山出身で結婚を機に南会津に移住し日本酒造りに携わりますが、地域産業の衰退、若者の流出、少子高齢化などの課題に直面します。その解決に向けて地元素材を活かした事業を興して働く場を提供しよう、豊かな自然とおいしい水、素晴らしい地域の継続を願

い、米農家仲間とともに会社経営に携わっておられます。氏の熱い思いが伝わる、若々しく情熱的な講話でした。

昼食後は支部代表三名の体験発表で、初めに伊達支部代表の矢館実也様の写真人生「かきくけこ」。

撮りためられた数多くの作品の中から三十数枚の写真を、感動感謝、記録記憶、工夫苦労、健脚健康、交流貢献の視点から提示され、写真と共に歩まれていく今を発表されました。一枚一枚の写真に会場が静まり感嘆の声が漏れ聞こえる素敵な時間でした。その後、田村支部から安瀬一正様の「支部の現状と活性化に向けた課題」、双葉支部から小野田敏之様の「震災と事故後十四年、双葉の今」の発表で、何れも現状と課題を踏まえた支部活動の在り方を問題提起され、各支部運営の参考になるものでした。



続いて、魅力ある会の創造、組織の拡大、社会貢献活動、人材育成、双葉支部へのサポート等の大会宣言を参加者で復唱し決意を新たにしました。

閉会式後、大会運営にあたられた南会津支部の会員の皆様の見送りを受け、購入した米焼酎ねっかの味を楽しみに帰路につきました。

アートギャラリー

一字書大字『象』（しょう）



【国見方部】鈴木 昭夫

作品は、第七十三回独立書展入選、令和七年一月、国立新美術館（東京）に展示された作品です。

大きさは、約三尺×四尺です。釈文を「見えないものがかたちとなって表れる」としました。そんなイメージが湧いた一字です。



クラブだより

五七五クラブ

《俳句》

早苗立つ水面に映る半田山

【国見方部】中村 洋平

軽トラで運ぶはカンナの夢づくり

【霊山方部】丹治 睦雄

思い出を短駆に余し夏の夜半

【梁川方部】津村 栄

《川柳》

ロードバイク風切る音は心地よく

【霊山方部】丹治 睦雄

清貧を洗えば赤貧顔を出す

【梁川方部】津村 栄

飼料にはまだまだ早い古古古米

【国見方部】中村 洋平

《短歌》

思ひ出は悪しき事のみ多けれど
良き思ひ出はアルバムに在り

【国見方部】中村 洋平

ひらがなを更に崩して螢の灯
草書ながらに文をしたたむ
わが庭の百花訪う蝶ひとつ
昔の賑わい知る由もなく

【梁川方部】津村 栄

学校現場から

地域で共に学び、共に生きる

福島県立だて支援学校

校長 渡邊 弘規

本校は、令和四年に伊達地域初の特別支援学校として開校した知的障がい児児童生徒のための特別支援学校で、小学部、中学部、高等部が設置されております。

本校は、大変立地条件がよく、近くには、駅、市役所、警察署、郵便局、買い物をするところなど、学習する資源がそろっており、児童生徒にとって経験を拡充するものとして、大いに役に立ちます。

地区校長会から



地区小中学校長協議会

会長 五十嵐 修



今年も研修会が六回計画され、校長としての資質向上を図り、よりよい学校経営へのヒントを得るべく意欲的に取り組んでいます。

九月には、「私学法人の学校経営に学ぶ」と題し、聖光学院高校に伺います。校長先生の講話をはじめ、授業や施設を見学させてい

保原小学校跡地に建設されたこともあり、開校当初から地域の方々に深い御理解をいただき、多大なる支援をしていただいております。地域の方々との交流をしたり、地域の方々にゲストティーチャーになっていただいたりなど、直接的に教育活動にもかかわっていただいております。児童生徒は、いずれこの地域で生きていきます。その上で、このような教育活動をとおして、児童生徒のことを理解していただけることは、とても重要なことです。

また、本校では、児童生徒が地域に貢献できることを大事に考えています。少しでも貢献できるよ

ただき、地元の高校への理解を深めます。また十二月には、民間企業経営について学ぶ機会を計画しました。プレイスメイキングふくしま社長・渡邊様に、「誰もが住みたくなる、自分らしく暮らせるまちづくり」について話していただいたり、施設見学をさせていただいたりします。

働き方改革や教員不足等、課題の多い学校現場ですが、研修での学びを学校づくりに生かし、子どもたちに還元していくことができるとなりたいと思います。

う、地域のことを学び、地域の公共機関で清掃活動なども行っております。普段は支援されることが多い児童生徒ですが、地域に貢献し、社会の一員として立派に生きていけることを願っています。

まさにこれこそが、福島県の特別支援教育の理念でもある、「地域で共に学び、共に生きる教育」を実現することでもあると考えます。そのためには、児童生徒が、「自分なりに」「自分らしく」頑張れる人になれるよう、教育活動を展開していきます。

本校には、地域支援センターも設置されており、地域の学校等や幼児児童生徒、保護者への支援をしております。

本校が、伊達地域の特別支援教育の核になることができるよう、邁進していきたいと思



事務局より

退職校長会伊達支部会は、一名の新入会員を迎え、総会員数百九名で今年度の活動をスタートしました。支部役員は次の通りです。

蓬田支部会長を中心に今年度の事業を推進して参ります。皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

令和7年度 退職校長会伊達支部会 役員一覧

役職	氏名	顧問	会長	副会長	監事	理事(方部委員)										幹事				広報委員				クラブ		県評議員	県理事
						桑折	伊達	国見	梁川	保原	霊山	月山	阿部	佐々木	高見	岡崎	岡崎	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	
	大槻 太	石岡 恒憲	古宮 睦男	蓬田 吉穂	高橋 義通	渡邊 勝則	丹治 睦雄	三村 隆二	穴戸 正幸	鈴木 昭夫	福原 太一郎	清野 茂徳	中野 実也	矢部 雅好	阿部 雅好	佐々木 透	高見 良典	岡崎 秀一	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美	岡崎 和美

計報

松浦 恭夫様 (七十七才)

令和七年七月一日

遠藤 治一郎様 (八十二才)

令和七年七月三日

白田 眞二郎様 (八十三才)

令和七年七月八日